



ひだまり通信

最近のマイブーム

毎夜、寝る前に YouTube を覗き始めた結果、いわゆる都市伝説系のネタに完全にどハマりしてしまいました。誰かと語り合い、飲み明かせれば最高なのですが、ここでお気に入りのネタをひとつ、ご紹介致します。思春期の中学生が大好きそうな「オカルトファンタジー」なので、興味のない方は鼻で笑って下さい。

『日ユ同祖論』

紀元前 722 年ですから、今から 2,740 年前、アッシリア帝国に滅ぼされたイスラエル王国から全世界に散らばるとされるユダヤ人の中に、いまだ行方の判明していない一群がいて、『失われた 10 氏族』と呼ばれ、古代オリエント史上最大のミステリーとなっています。大ヒット映画インディ・ジョーンズ『失われたアーク(聖櫃)』の世界ですね。その中の一部の人々が、極東の地、日本に流れ着いて、わが大和民族の祖先となった。という、わくわくするようなファンタジーです。

明治時代にスコットランド人の貿易商、ニコラス・マクラウドという人物が書いた『日本古代史の縮図』という本が起源とされており、その後も実に多くの書籍が出版されているので、聞いたことがあるという方は多いとは思いますが、たくさんの「状況証拠」が揃っていて、その内容を知ると本当に驚きますよ。

では、ほんの「さわり」を少々

- ・ヘブライ語のアルファベットと日本語のカタカナがとても良く似ている。(そっくり)
- ・言葉も似ていて、「アツパレ、アナタ、アリガト、サヨナラ」など、今でもそのまま通じる言葉が 3,000 以上あると言われていて。
- ・日本語としては語源が分からない、例えば、神社の「鳥居」という言葉ですが、ヘブライ語の「トリイ」は「門」という意味だそうです。
- ・日本の国歌『君が代』の歌詞をヘブライ語として聞くと、「神の選民たるシオンの子(イスラエル人)たちよ。立ち上がれ、神を称えよ」に聞こえるらしいですよ。
- ・皇室や神社の祭祀の作法、行事、習慣にユダヤ教との共通点が多い。(祇園祭・神輿)
- ・日本各地の神社には、イスラエル国旗のマーク「六芒星(別名「ダビデの紋章」と呼ばれる、三角形が2つ重なった星形)」があちこちにありますが、イスラエルの神殿には皇室の「16 弁の菊花紋」が普通にあるそうです。ちなみに「菊花紋」を使用している国は世界に2つ、そう、日本とイスラエルだけなのだそうです。
- ・キルギスタン、モンゴルなど、オリエントから日本に至るシルクロードの途中途中に、とにかく顔や体形が日本人そっくりで、遺伝子上の類似性もかなり近い民族が実在しています。

どうですか。ロマン溢れるミステリーファンタジーだと思いませんか。ちなみに日本に来た一族は『秦(はた)』を名乗ったといわれています。うちにも 1 人いますので、何かを知っているかも知れませんね……。

如何でしたでしょうか。万が一好評なら、第 2 弾、第 3 弾と、ネタは尽きませんので、ご要望にお応えすることもやぶさかではありません。

ま、所詮は「オカルト」ネタですから、強制は出来ませんが、もし同好の士がいらっしゃいましたら、語り合い、飲み明かしましょう。できれば割り勘で……。